

# 寝屋川における住民や地域との 連携による水辺空間整備について

大阪府枚方土木事務所

藤井 康嗣

## 寢屋川（打上川治水緑地下流）の整備について

- 現在、寢屋川の河道整備の検討中である**打上川治水緑地下流**は、平成13年度「寢屋川再生プラン・ワークショップ」で提案された4つの重点整備箇所の一つ。
- 計画づくりにあたっては、市民の思いや専門家の方々の意見を集約する形で実施したいと考え、**ワークショップ**という形式で取り組んでいる。
- すでに寢屋川駅前、幸町公園においては、同じように**ワークショップ**により計画づくりが行われ、整備が完了し、現在は市民の憩いの場となっている。

# 今回の計画場所



1:4,000 相当

地図上の1センチは約40メートル  
印刷中心は東経135度38分6秒 北緯34度46分5秒

# 今回の計画場所



# 寝屋川再生プラン・ワークショップ

## ○寝屋川再生プラン・ワークショップとは

寝屋川市制50周年を機に、**自然豊かな魅力ある川**に再生すべく平成13年に発足。

「川まちづくり計画」を策定し、整備計画をたてた上で補助金（現在は交付金）により事業を実施

- 第1回：現況報告、「よい所・わるい所」
- 第2回：水路や樋門に行き、寝屋川に触れる
- 第3回：計画づくり1（整備箇所を検討）
- 第4回：計画づくり2（整備イメージを検討）
- 第5回：生物の把握と具体案  
⇒市民組織「ねや川水辺クラブ」を設立

これを機に、  
『寝屋川市駅前親水空間』  
『幸町公園親水空間』  
の整備を実現

### 【寝屋川再生の基本方針】

- 川に親しめる場をつくる
- 川だけでなく周辺も一緒に考えていく
- 市民、行政の協働による日常的な活動を続け、発展させる

# 先行整備事例



寝屋川市駅前親水空間  
(ねや川水辺クラブHPより)



幸町公園親水空間

## 寢屋川再生プラン・ワークショップの成果

- 地域が「水辺」に親しみ、イベントや清掃活動の頻度があがった。
- 府民協働は環境整備の基本！今後も継続したい。

● 清掃活動の例：寢屋川クリーンリバー作戦、春・秋の年2回実施。  
多くの市民が参加



## 寝屋川（打上川治水緑地下流）ワークショップのメンバー

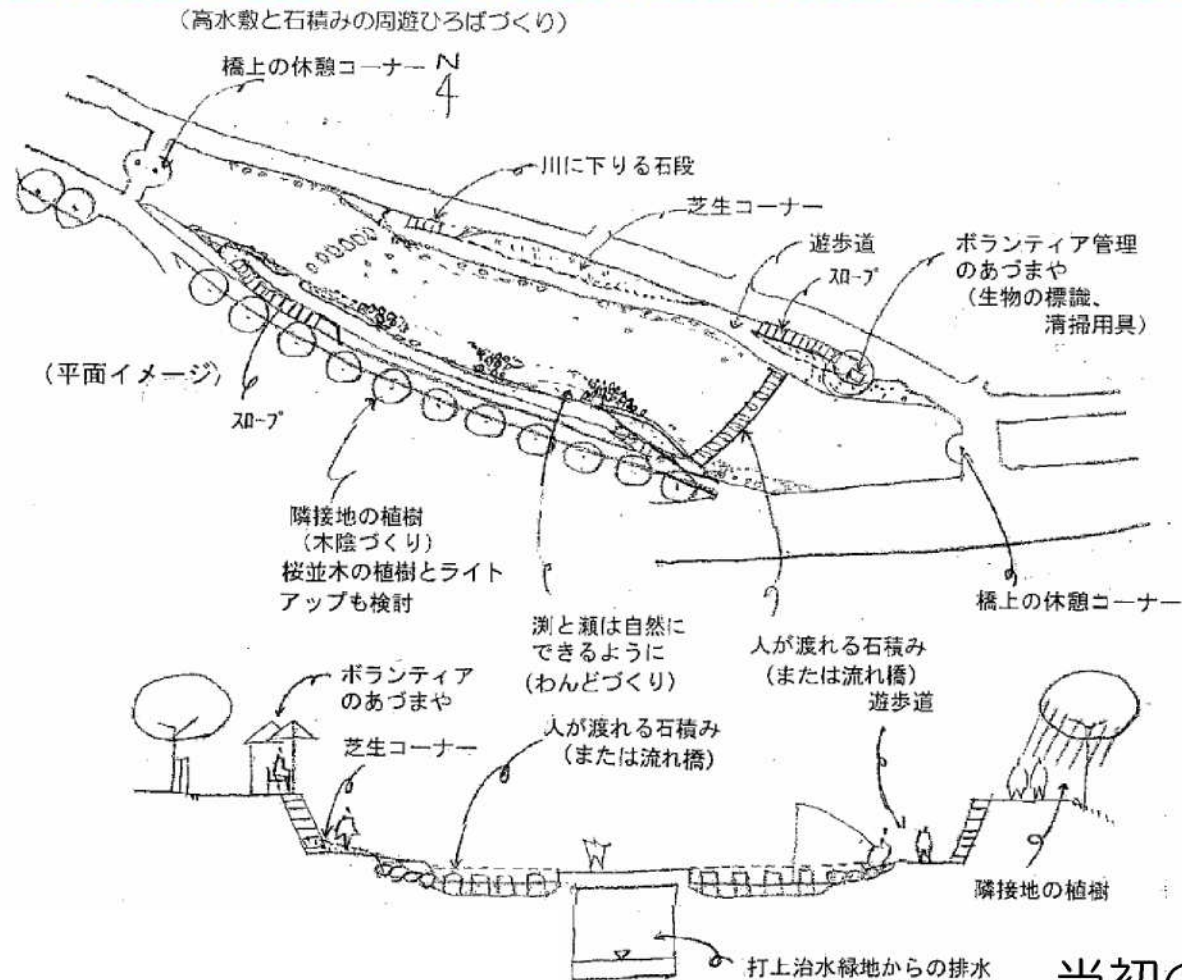
- 地元自治会  
川勝町、国松町
- NPO等団体  
ねや川水辺クラブ、水辺を親しむ会
- 学校  
国松緑丘小学校、大阪府立高専、摂南大学
- 行政  
寝屋川市、大阪府河川室、枚方土木事務所

他に、今年度より一般公募による市民の参加あり



# 打上川治水緑地下流

寝屋川再生プラン・ワークショップでも重点的箇所の一つとして検討されていた。



当初の整備イメージ

# 計画づくりのコンセプト

## 生物と触れ合いながら 自由に遊べる河原

- ① 子供が遊べる川
- ② 草花の観察の場
- ③ 自然とのふれあいの場
- ④ 飛び石の設置

## 人と生物とが同じ空間で 時間を共有できる憩いの河原

- ① 散策路
- ② 休憩施設
- ③ 飛び石の設置

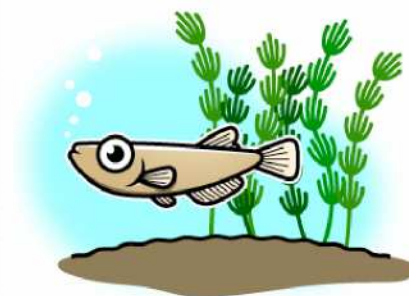
遊び

憩い

自然

## 自然の生態系をはぐくむ河原

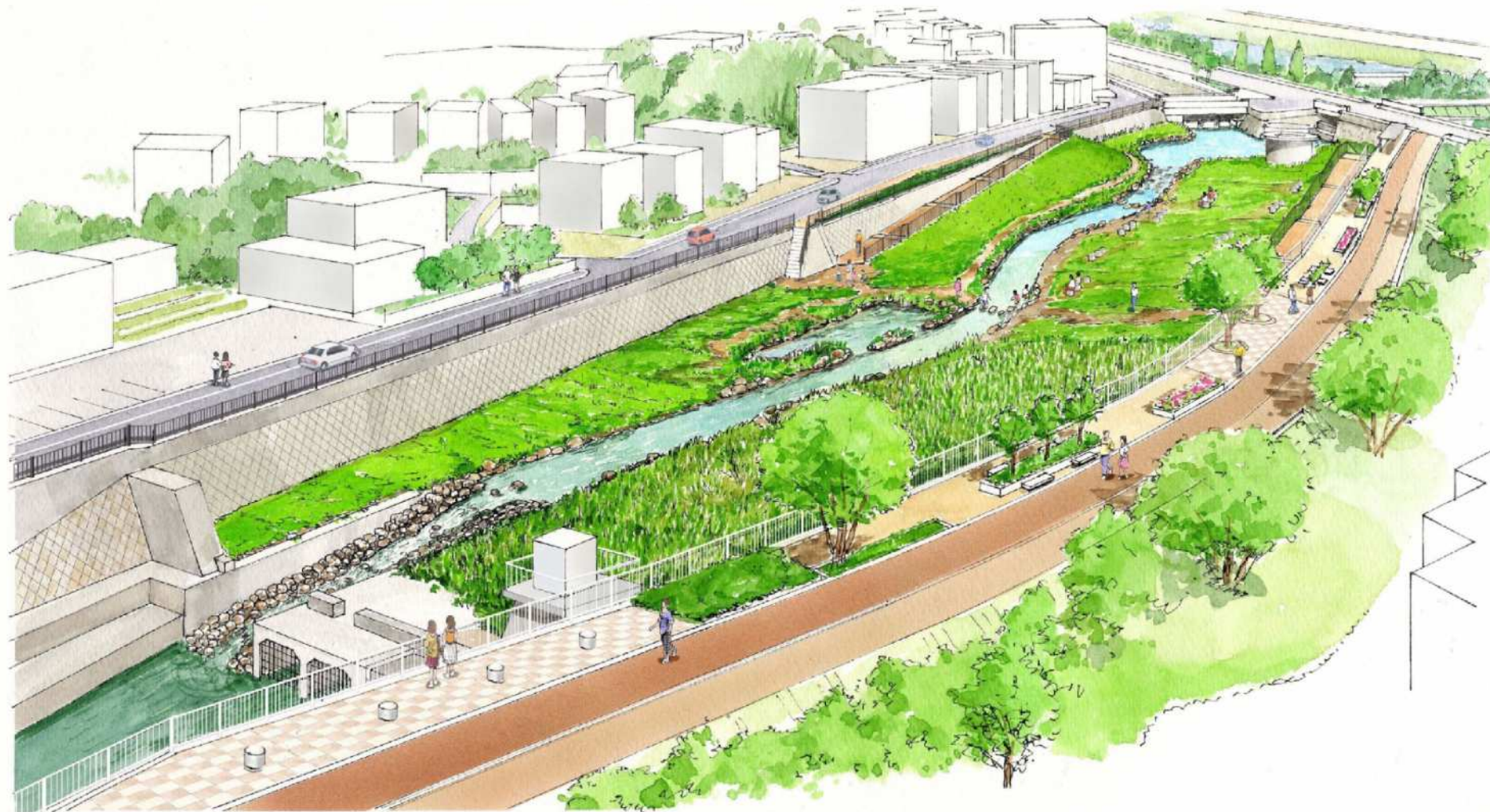
- ① 植物の自然な繁茂
- ② 野鳥の生息しやすい環境



# 整備の全体イメージ

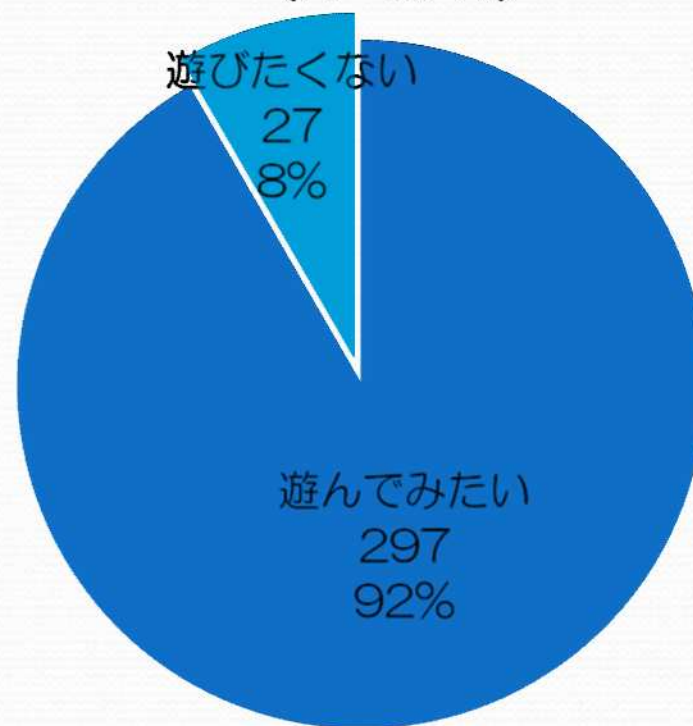


# イメージパース



# 小学生へのアンケート調査

絵(パース)のような場所で遊んでみたいか？  
(N=324)

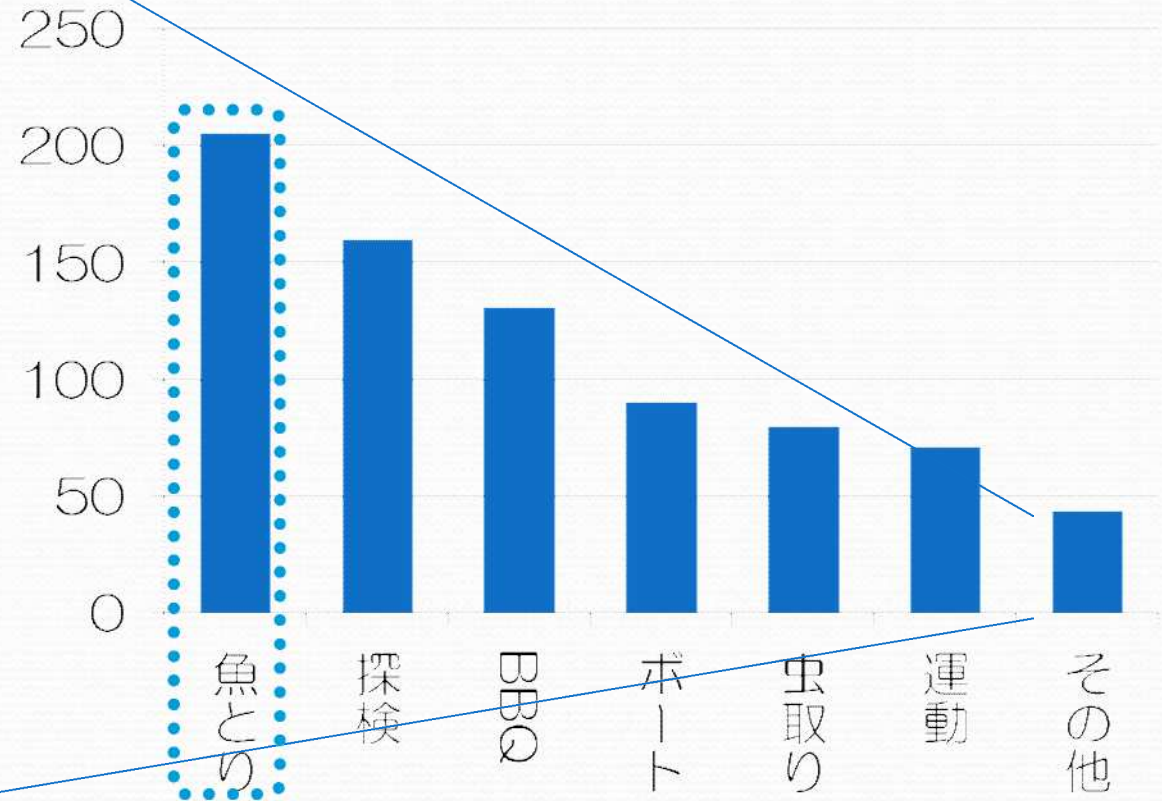


9割以上の児童は『遊んでみたい』

# 小学生へのアンケート調査

絵のような場所でどんな事をして遊んでみたいか  
(選択式, 複数回答可)

項目	サンプル数
水遊び	23
鬼ごっこ	4
泳ぎたい	4
遊具で遊ぶ	3
ボール遊び	2
生き物の観察	2
飛び石で遊びたい	2
散歩	2
日向ぼっこ	1
釣り	1
スケッチしたい	1
水の音を聞く	1
キャンプ	1
ザリガニ釣り	1
生き物と触れ合う	1
お花さがし	1
石投げ	1



6割以上の児童

# 今後の流れ

第1回 H.22.11

・現地とそれまでの計画から、参加者の思いや良い案を出し合った。

第2回 H.23.1

・第1回の意見から、整備方針や計画案などについて話し合った。

第3回 H.23.2

・第2回までの内容より、基本的な方針や方法、維持管理について検討した。

第4回 H.23.10.2

・これまでの計画イメージと**小学生の意見**について話し合いました。

第5回 H.23.11

・第4回の意見から、より具体的な整備内容や活用について話し合います。

第6回 H.24.1

・第5回までの意見を元に最終案を提示し、今後の活用などについて話し合います。